新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価（高等学校　芸術科（音楽））

文化庁
参事官（芸術文化担当）付教科調査官
文部科学省
初等中等教育局 教育課程課教科調査官

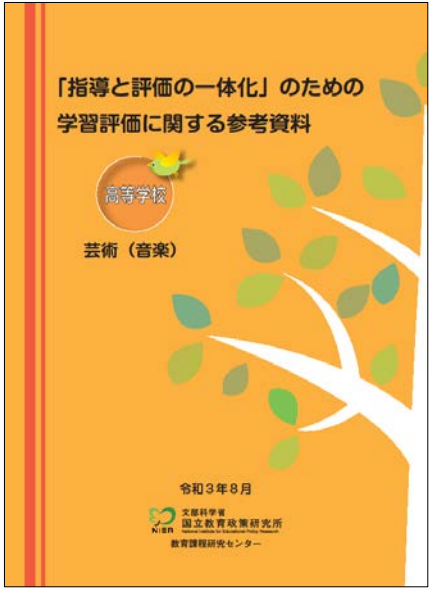
河合　紳和

目次

1　新学習指導要領の改訂のポイント

2　芸術科音楽における学習評価

3　指導と評価の一体化のポイント



「指導と評価の一体化」のための
学習評価に関する参考資料【高等学校　芸術(音楽)】

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_ongak.pdf

1　新学習指導要領の改訂のポイント

育成を目指す資質・能力の三つの柱

- 知識及び技能
- 思考力，判断力，表現力等
- 学びに向かう力，人間性等

芸術科の目標

芸術の幅広い活動を通して，各科目における見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（1）芸術に関する各科目の特質について理解するとともに，意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】

（2）創造的な表現を工夫したり，芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。【思考力，判断力，表現力等】

（3）生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い，豊かな情操を培う。【学びに向かう力，人間性等】

「音楽Ⅰ」の目標

　音楽の幅広い活動を通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽，音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

「解説」p. 21

「音楽Ⅰ」の目標

音楽的な見方・考え方

　感性を働かせ，音や音楽を，音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え，自己のイメージや感情，音楽の文化的・歴史的背景などと関連付けること。

「音楽Ⅰ」の目標

「知識及び技能」の習得に関する目標

(1)　曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに，創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

「解説」p. 23

「音楽Ⅰ」の目標

芸術科音楽における「知識」の習得

- 音楽を形づくっている要素などの働きについて実感を伴いながら理解し，表現や鑑賞などに生かすことができるようにすること。
- 音楽に関する歴史や文化的意義を，表現や鑑賞の活動を通して，自己との関わりの中で理解できるようにすること。

「解説」p. 24

「音楽Ⅰ」の目標

芸術科音楽における「技能」の習得

・一定の手順や段階を追って身に付けることができるようにするのみでなく，変化する状況や課題などに応じて主体的に活用できる技能として身に付けることができるようにすること。

「音楽Ⅰ」の目標

「思考力，判断力，表現力等」の育成に関する目標

(2)　自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや，音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

「音楽Ⅰ」の目標

「学びに向かう力，人間性等」の涵養に関する目標

(3)　主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，音楽文化に親しみ，音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

「音楽Ⅰ」の内容

A 表現
(1) 歌唱
(2) 器楽
(3) 創作

B 鑑賞
(1) 鑑賞

〔共通事項〕

ア　「思考力，判断力，表現力等」に関する資質・能力
イ　「知識」に関する資質・能力
ウ　「技能」に関する資質・能力

「音楽Ⅰ」の内容

Ａ表現

(1) 歌唱

歌唱に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。【思考力，判断力，表現力等】

イ　次の(ｱ)から(ｳ)までについて理解すること。【知識】

(ｱ) 曲想と音楽の構造や歌詞，文化的・歴史的背景との関わり

(ｲ) 言葉の特性と曲種に応じた発声との関わり

(ｳ) 様々な表現形態による歌唱表現の特徴

ウ　創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な，次の(ｱ)から(ｳ)までの技能を身に付けること。【技能】

(ｱ) 曲にふさわしい発声，言葉の発音，身体の使い方などの技能

(ｲ) 他者との調和を意識して歌う技能

(ｳ) 表現形態の特徴を生かして歌う技能

「音楽Ⅰ」の内容

Ｂ鑑賞

(1)鑑賞

鑑賞に関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，次の(ｱ)から(ｳ)までについて考え，音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと。【思考力，判断力，表現力等】

(ｱ) 曲や演奏に対する評価とその根拠

(ｲ) 自分や社会にとっての音楽の意味や価値

(ｳ) 音楽表現の共通性や固有性

イ　次の(ｱ)から(ｳ)までについて理解すること。【知識】

(ｱ) 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わり

(ｲ) 音楽の特徴と文化的・歴史的背景，他の芸術との関わり

(ｳ) 我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴

「音楽Ⅰ」の内容

〔共通事項〕

（1）「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導を通して，次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア　音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。【思考力，判断力，表現力等】

イ　音楽を形づくっている要素及び音楽に関する用語や記号などについて，音楽における働きと関わらせて理解すること。【知識】

資質・能力の関連付け

【内容の取扱い】

(2) 内容の「Ａ表現」の(1), (2)及び(3)の指導については，ア，イ及びウの各事項を，「Ｂ鑑賞」の(1)の指導については，ア及びイの各事項を適切に関連させて指導する。

(4) 内容の〔共通事項〕は，表現及び鑑賞の学習において共通に必要となる資質・能力であり，「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導と併せて，十分な指導が行われるよう工夫する。

我が国や郷土の伝統音楽の取扱い

【内容の取扱い】

(6) 内容の「Ａ表現」の指導に当たっては，我が国の伝統的な歌唱及び和楽器を含めて扱うようにする。その際，内容の「Ｂ鑑賞」の(1)のア及びイの(ｲ)又は(ｳ)との関連を図るよう配慮するものとする。

(9) 内容の「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の教材については，学校や地域の実態等を考慮し，我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国の様々な音楽から幅広く扱うようにする。また，「Ｂ鑑賞」の教材については，アジア地域の諸民族の音楽を含めて扱うようにする。

言語活動の充実

【内容の取扱い】

(8) 内容の「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては，思考力，判断力，表現力等の育成を図るため，音や音楽及び言葉によるコミュニケーションを図り，芸術科音楽の特質に応じた言語活動を適切に位置付けられるよう指導を工夫する。なお，内容の「Ｂ鑑賞」の指導に当たっては，曲や演奏について根拠をもって批評する活動などを取り入れるようにする。

知的財産権の取扱い

【内容の取扱い】

(11) 自己や他者の著作物及びそれらの著作者の創造性を尊重する態度の形成を図るとともに，必要に応じて，音楽に関する知的財産権について触れるようにする。また，こうした態度の形成が，音楽文化の継承，発展，創造を支えていることへの理解につながるよう配慮する。

「参考資料」p. 3

学習評価

　学校における教育活動に関し，生徒の学習状況を評価するもの。

　生徒の学習状況を的確に捉え，教師が指導の改善を図るとともに，生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするためには，学習評価の在り方が極めて重要。

「参考資料」p. 3

観点別学習状況の評価

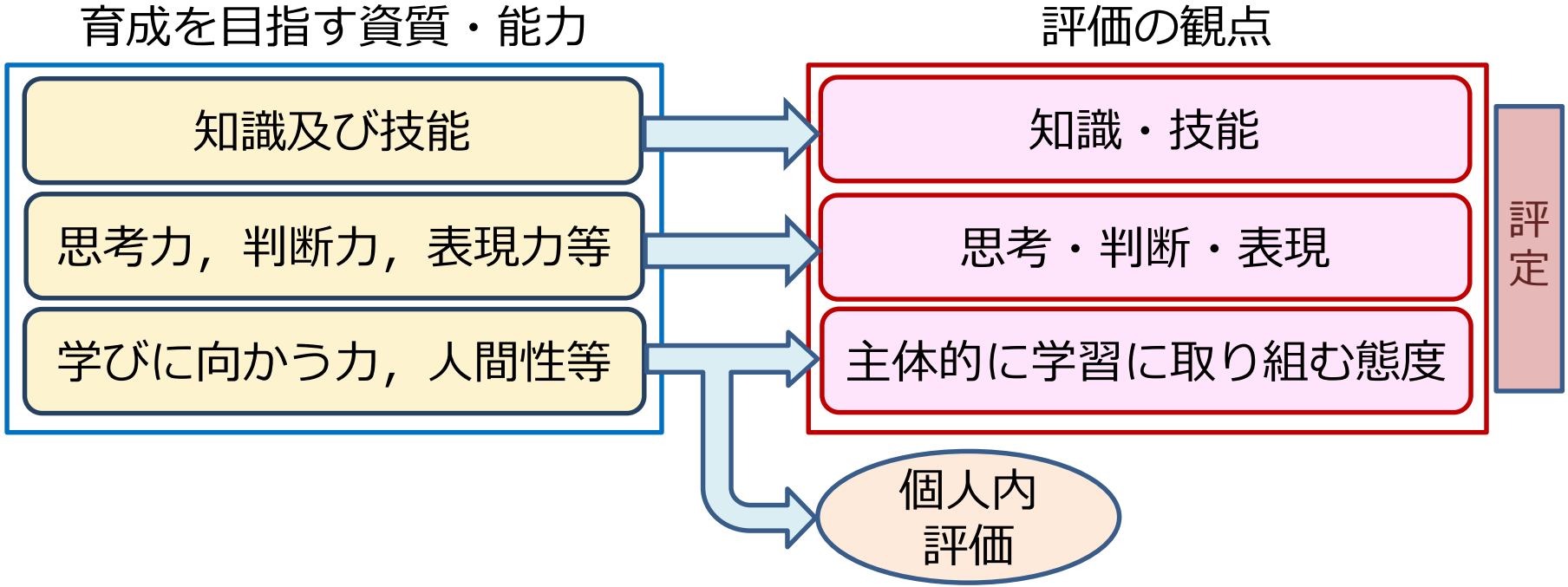
　学校における生徒の学習状況を，複数の観点から，それぞれの観点ごとに分析的に捉える評価。

　生徒が各教科等での学習において，どの観点で望ましい学習状況が認められ，どの観点に課題が認められるかを明らかにすることにより，具体的な指導や学習の改善に生かすことを可能とする。

2　芸術科音楽における学習評価

「参考資料」pp. 9～10

資質・能力の三つの柱と評価の観点



「参考資料」pp. 10～11

主体的に学習に取り組む態度

「主体的に学習に取り組む態度」に係る各教科等の評価の観点の趣旨に照らして，

① 知識及び技能を獲得したり，思考力，判断力，表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとしている側面

② ①の粘り強い取組を行う中で，自らの学習を調整しようとする側面

という二つの側面を評価することが求められる。

「参考資料」pp. 10～11

主体的に学習に取り組む態度

自らの学習を調整しようとする側面

- 自らの学習状況を把握し，学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら，学ぼうとしているかどうかという意思的な側面。
- 各教科等の特質に応じて，生徒の発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら，「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で，評価を行う必要がある。

主体的に学習に取り組む態度

自らの学習を調整しようとする側面

指導において次のような工夫も大切

- 生徒が自らの理解状況を振り返ることができるような発問を工夫したり指示したりする。
- 内容のまとまりの中で，話し合ったり他の生徒との協働を通じて自らの考えを相対化するような場面を設ける。

「参考資料」p. 45

学習評価の進め方

題材の目標を作成する

↓

題材の評価規準を作成する

↓

「指導と評価の計画」を作成する

↓

授業を行う

↓

観点ごとに総括する

「参考資料」p. 45

学習評価の進め方

題材の目標を作成する

↓

題材の評価規準を作成する

↓

「指導と評価の計画」を作成する

↓

授業を行う

↓

観点ごとに総括する

「参考資料」p. 45

学習評価の進め方

題材の目標を作成する

↓

題材の評価規準を作成する

↓

「指導と評価の計画」を作成する

↓

授業を行う

↓

観点ごとに総括する

指導要録の参考様式の改善

〈旧〉

第１学年	
評定	修得単位数
5	2

〈新〉

第１学年		
学習状況	評定	修得単位数
ＡＡＡ	5	2

「参考資料」p. 45

題材の構想と学習評価

育成を目指す資質・能力を評価と一体的に考えて題材を構想する

↓

学習指導要領の目標や内容，「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方等を踏まえて学習評価を行う

「参考資料」p. 15, 29

「内容のまとまり」

学習指導要領に示す各教科等の「第２款 各科目」における各科目の「１目標」及び「２ 内容」の項目等をそのまとまりごとに細分化したり整理したりしたもの

「音楽Ⅰ」における内容のまとまり（※音楽Ⅱ，音楽Ⅲにおいても同様）

「Ａ表現」（１）歌唱 及び〔共通事項〕（１）
「Ａ表現」（２）器楽 及び〔共通事項〕（１）
「Ａ表現」（３）創作 及び〔共通事項〕（１）
「Ｂ鑑賞」（１）鑑賞 及び〔共通事項〕（１）

「参考資料」p. 33

「内容のまとまり」と〔共通事項〕との関係

歌唱	器楽	創作	鑑賞
音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え⇒			
⇒歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，自己のイメージをもって歌唱表現を創意工夫すること。	⇒器楽表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，自己のイメージをもって器楽表現を創意工夫すること。	⇒創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，自己のイメージをもって創作表現を創意工夫すること。	⇒鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら，次の(ｱ)から(ｳ)までについて考え，音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くこと。

「参考資料」pp. 14～15

教科の目標と「評価の観点及びその趣旨」との対応関係

【学習指導要領「教科の目標」】
学習指導要領　各教科の「第１款　目標」等

（1）	（2）	（3）
（知識及び技能に関する目標）	（思考力，判断力，表現力等に関する目標）	（学びに向かう力，人間性等に関する目標）

【改善等通知　別紙５「評価の観点及びその趣旨】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	（知識・技能の観点の趣旨）	（思考・判断・表現の観点の趣旨）	（主体的に学習に取り組む態度の観点の趣旨）

「参考資料」pp. 14～15

科目の目標と「評価の観点の趣旨」との対応関係

【学習指導要領「科目の目標」】
学習指導要領　各教科の「第２款　各科目」における科目の目標

	（1）	（2）	（3）
	（知識及び技能に関する目標）	（思考力，判断力，表現力等に関する目標）	（学びに向かう力，人間性等に関する目標）
観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	（知識・技能の観点の趣旨）	（思考・判断・表現の観点の趣旨）	（主体的に学習に取り組む態度の観点の趣旨）

科目の目標に対する「評価の観点の趣旨」は各学校等において作成する

「参考資料」p. 31

「音楽Ⅰ」の目標に対する「評価の観点の趣旨」（例）

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け，歌唱，器楽，創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し，それらの働きを感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考え，どのように表すかについて表現意図をもったり，音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3　指導と評価の一体化のポイント

1　評価の場面を精選する

日々の授業の中で生徒の学習状況を適宜把握して指導の改善に生かすことに重点を置く

観点別の学習状況の評価は，題材など内容や時間のまとまりごとに，それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど，その場面を精選することが重要

3　指導と評価の一体化のポイント

「参考資料」p. 61

例：「題材全体の学習指導における評価の位置付け」

（2）題材全体の学習指導における評価の位置付け

題材全体の学習指導		評価の位置付け		
		評価の観点と主な評価の対象		
時	主な学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	・変奏による曲想の変化を捉えながら「六つの変奏曲」を聴く ・曲想の変化と音楽を形づくっている要素の働きの変化との関わりについて知る。			
2	・「ちゅうりっぷ」の旋律の音の連ね方を様々に変化させ，曲想の変化を捉える。 ・「かっこう」を主題とした変奏を創作するためのイメージをもつ。			
3	・「アイディアシート」の記述内容を踏まえ，表したいイメージに合うように変奏をする。 ・表したいイメージをより明確に表現するために創意工夫を重ねる。 ・「六つの変奏曲」を聴いて感じたことを想起しながら，グループで変奏曲風につなげて発表するための配列を考える。		思① （創作）	
4	・作品を聴き合いながら変奏の面白さを味わう。 ・変奏の創作の学習を踏まえて「六つの変奏曲」を聴き，曲想の変化と音楽の構造の変化との関わりを結び付ける。 ・自分にとっての「変奏」や「変奏曲」の意味や価値について考える。	知①技 （創作） 知② （鑑賞）	思② （鑑賞）	態 （創作・鑑賞）

矢印⇩では，生徒の学習活動の状況を観察などによって継続的に見取り，それぞれの評価を記録に残す場面◯で総括的に評価する。

3　指導と評価の一体化のポイント

2　評価方法を工夫する

各教科等の特質に応じて，多様な評価方法を適切に取り入れて評価を行う

芸術科音楽では…

演奏，作品，ノート，ワークシート，発表やプレゼンテーション，グループでの話合いでの発言，活動時の観察，自己評価や相互評価，ポートフォリオ…などが考えられる

3　指導と評価の一体化のポイント

3　生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を明確にする

その題材の学習内容を踏まえて適切に選択し，題材の評価規準の「思考・判断・表現」に位置付ける

・学習の内容を具体化する
・指導のねらいを明確にする
・指導の改善に生かしやすくする

複数の領域や分野の関連を図った題材

【内容の取扱い】

(1) 内容の「Ａ表現」及び「Ｂ鑑賞」の指導については，中学校音楽科との関連を十分に考慮し，それぞれ特定の活動のみに偏らないようにするとともに，必要に応じて，〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図るものとする。

生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を共通に選択し，評価規準に位置付けている。

新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価（高等学校　芸術科（音楽））

文化庁
参事官（芸術文化担当）付教科調査官
文部科学省
初等中等教育局 教育課程課教科調査官

河合　紳和